教師力講座 9

漢字指導を楽しく！継続的に！

元新宿区立西戸山小学校教諭
安田恭子

いつ、どこで何を中心に教えたらいいの？

Q

せっかく導入の準備を工夫して、説明文の学習に入ったのに、ふたを開けてみたら新出漢字のオンパレードでびっくり。漢字指導に追われてなかなか中身の学習には入れないし、指導時間は足りなくなるし…なんてことがあったな。うまく指導時間がとれないかな。

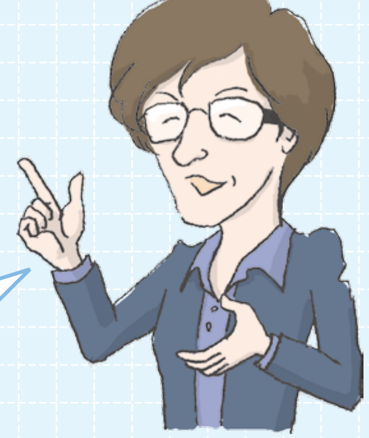
Q

私は、よく低学年の担任になるんだけど、小さい人はちょっとでも急いで字を書くと、「先生、そこははねません」とか「あ、はらっていない」とか…。正しい字形は大切なのだけれど、どこまで教えてどこまで許容するか難しいのよね。

A

確かに、担当学年にもよりますが、一文字一文字の漢字で、筆順、画数を教え、空書きしたり、筆順を一画ずつ増やしたりしながら書かせたり、音読み訓読みを教えた後、さらに言葉集め、文作り、と手順を追って指導を進めていきますと、指導に莫大な時間と手間がかかってしまい、読むことや書くことの指導時間が不足してしまう等の声をよく聞きます。かといって、漢字指導をしないわけにもいかず…。

今回は、この時間の問題を解決しつつ、楽しく継続的に行える漢字指導を考えてみましょう。

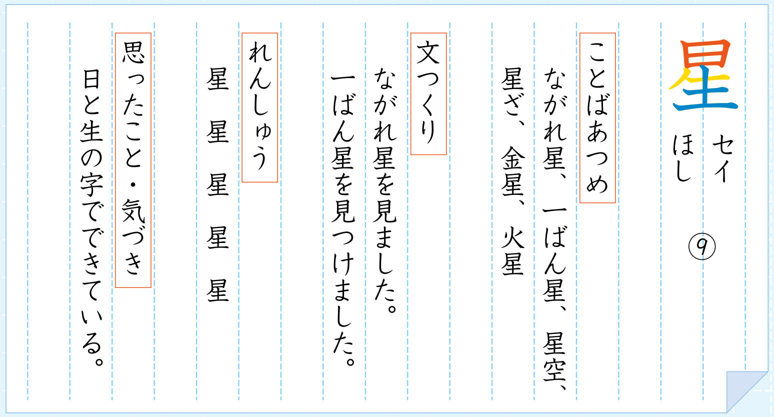


学年に応じて ポイントを絞ったノート指導を！

指導時間の問題を解決する方法として大切なことが、学年に応じて指導のポイントを絞ることです。また、漢字ノートの活用は、学習が系統立てられて効果的です。こまめに子どもたちの漢字ノートをチェックし、励ましてやりながら、学年に応じたポイントにかかわる指導だけを重点的にするとよいでしょう。

低学年

読みと**筆順**、そして漢字に興味をもたせる**気づき**が大事です。例えば「星」の字の指導では、まとまりや気をつけ筆順に従って、赤・黄・青で順番に色分けして書きます。読みを確かめ、少々の言葉集めをしたら、後は個別学習にします。項目はあらかじめ約束しておきます。



星 セイ ほし ⑨

ことばあつめ
ながれ星、一ばん星、星空、
星ざ、金星、火星

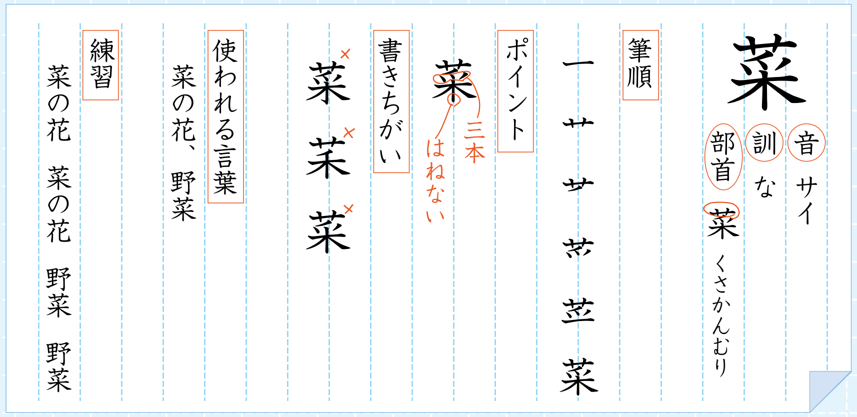
文つくり
ながれ星を見ました。
一ばん星を見つけました。

れんしゅう
星　星　星　星　星

思ったこと・気づき
日と生の字でできている。

中学年

さらに**部首**が加わり、**読み**も、音読み・訓読みを明確に区別します。さらに陥りやすい書き違いや、文字のポイント等を自分で**チェックポイント**として書かせるようにします。



菜 音 サイ 訓 な 部首 菜 くさかんむり

筆順

ポイント
菜 三本 はねない

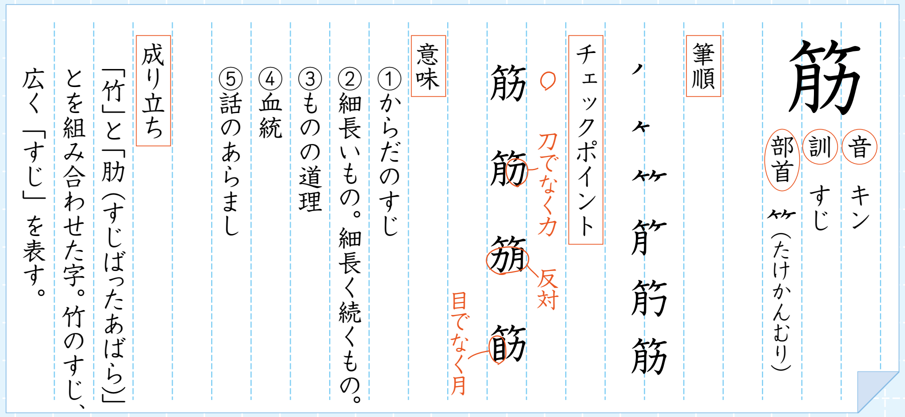
書きちがい
菜× 菜× 菜×

使われる言葉
菜の花、野菜

練習
菜の花　菜の花　野菜　野菜

高学年

さらに漢字の**意味**や**成り立ち**が加わります。ただ、内容がふくらむ一方では負担が多くなりますので、文作りなどは止めておきましょう。



筋 音 キン 訓 すじ 部首 ⺮（たけかんむり）

筆順

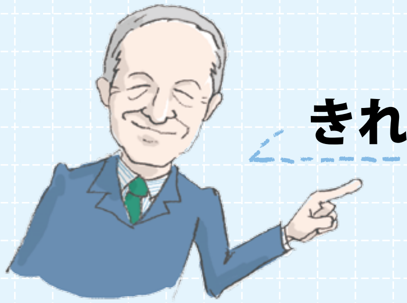
チェックポイント
筋 ○ 刀でなく力
筋 反対
筋 目でなく月
筋

意味
①からだのすじ
②細長いもの。細長く続くもの。
③ものの道理
④血統
⑤話のあらまし

成り立ち
「竹」と「肋（すじばったあばら）」とを組み合わせた字。竹のすじ、広く「すじ」を表す。

きれい・関心・繰り返しの「3K」

京都女子大学教授　**吉永幸司**（よしながこうし）



1　漢字に心をときめかせる子

漢字の学習指導で思い出すことがある。それは、一年生の子が初めて漢字を覚えた日の感動を綴って下さったお母さんの言葉である。その日、その子は母親を前にして、学校で習ったように、「ここは、まっすぐに書く。ここは長くしてはだめ」と得意になって教えたというのである。「この子は、漢字の面白さの鍵を手にし、ときめいている」と書かれていた。印象に残る言葉であった。

卒業を前にして、漢字学習の発展として、自分を励ます言葉探しをさせたことがあった。辞書で熟語を調べながら、「漢字を見ていると元気が出てくる」とつぶやく子がいた。その子のノートには「勇気・克己・奮起・努力」等の熟語が並んでいた。

新出漢字を初めて覚えたときの顔、漢字テストで合格点を取ったときの顔、筆順に気をつけながら書いている真剣な顔、そして、漢和辞典で調べた語句を教え合っているときの得意そうな顔。漢字との出会いは、子どもの心をときめかせ、学習への意欲を高める。

2　漢字指導の「3K」

新出漢字だけの指導やテストや書き取りを課題とするだけでは漢字の力は育たない。漢字への魅力を大事にする指導の工夫が必要である。きれい・関心・繰り返しの3つの「K」で漢字指導を考えてみたい。

❶きれいに書かせるの「K」

漢字をノートに書かせるとき、きれいに書くよう指導する。文字を丁寧に書くことで、落ち着いて学習する習慣がつき、考える力が育つ。筆順やはね、止め等を丁寧に書くと整った文字になる。丁寧に漢字を書いて満足そうにしている子に、「きれいに書けていますよ」と、声をかける。この瞬間の快さがうれしい。

❷関心を高めるの「K」

漢字テストが合格点であるからといって、漢字の力が十分であるとはいえない。漢字は使えることまで欲張ってみたい。

覚えた漢字を使う、忘れた漢字は辞書で調べるように習慣づけるようにすると、漢字に親しみをもつようになる。そのためには、漢字の成り立ちを理解させる。「へん」や「つくり」、象形文字や会意文字など新しい漢字の知識を教える。珍しい漢字がおもしろいと言い合える仲間がいる。漢字に対する幅広い情報を得られる場。そのような国語教室であってほしい。

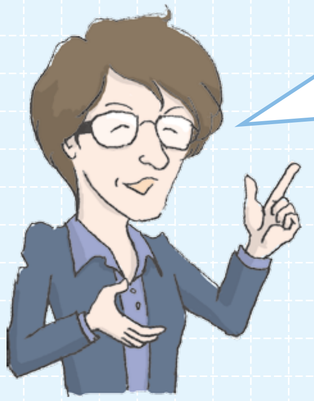
❸繰り返し漢字にふれさせるの「K」

漢字指導は、繰り返して漢字にふれさせることである。

私の実践で効果があったのは、教科書の巻末にある漢字一覧表に添えている熟語を毎日授業の初めに音読させたことである。教科書や漢字辞典は、工夫次第で効果を上げることができる。漢字の宝庫だから。

漢字指導の基本は？

1 読めるように	漢字指導の基本は読めることです。「七夕」や「二十日」が「たなばた」「はつか」と読めたときの嬉しさは格別です。最初はルビ付でもよいので、読ませることを優先しましょう。
2 書けるように	読めたら、次には書けるようにしましょう。黒板の記入、掲示物の作成など、何でも教師が書いたり作成したりするのでなく、人目につく所に書く等の体験をできるだけ多くさせたいものです。
3 使えるように	いちばん望まれるのが、この「使える」ということです。そして、子どもたちがつまずくのもここです。ときには、子どもに漢字ミニテストなどの問題をつくって出題させるなど、受け身ではなく主体的に学ぶ場をつくるとよいでしょう。
4 遊べるように 楽しめるように	「山」という漢字をたくさん書いて山の絵にしたり、「雪」の字を散りばめて降ってくる雪の絵にしたりして遊びましょう。楽しみとして新しい漢字づくりをしたり、その意味づけをしたり、漢字と仲良くなる工夫をしましょう。



漢字指導を進めるうえでいちばん大切なことは、指導する先生自身が「漢字」そのものの素晴らしさをきちんと認識していることです。その素晴らしさとは、漢字はその一文字が意味を表すということです。

「あさはやくおきたけどあたまがいたくてがっこうをやすんだ」という表記と、「朝早く起きたけど頭が痛くて学校を休んだ」という表記を比べるとき、どちらが内容を素早く理解できるかは一目瞭然です。ですから、そのよさを、漢字学習が大好きで比較的ゆとりのある低学年で丁寧に指導することが大切です。さらにたくさんの漢字にまつわるエピソードを話すこと等、先生方の工夫も望まれます。